

今年の練馬区の農園は、関町南三丁目区民農園 58 区になりました。

去年までの園は廃園になりましたので、遠くなってしまいました。 U字支柱、「醗酵牛糞堆肥」「みのり堆肥」「ダルマ堆肥」も、大層重いので運べそうもありません。、困りました。で、今までのように手間をかけられないと思います。

石神井農協、オザキフラワーで有機肥料の価格を調べてきました。 農協は、送料 1,100 円で配達してくれるようです。多量でも少量でも、1 回の輸送費は同じだということで、耕作者に呼びかけてみようと思います。

上石神井南町の区民農園の多くの方が三丁目の農園を希望なさってお出でしたが、抽選漏れで皆さん補欠。 幸運を力に頑張っていきたいと思っています。



上石神井南農園は廃園

1 月 31 日耕作終了

2 年間使用した 18 区 懐かしい

不耕起、有機無農薬で、美味しい栄養価の高い野菜作りを目指す。 楽楽・置く置くを極める。 初年度から収穫できる循環型有機栽培を試みてまいります。言うは易し、行うは難し。 ラクラク・小エネを追求していきましょう。

従来型の慣行農法（区内農家の野菜の学校・NHK藤田先生の野菜作り・・・）とは、真逆のやり方になります。 慣行農法から有機無農薬農法に切り替えると、2～3 年は収量が落ちるとというのが常識のようですが、かなり無茶なトライであります。

短期間で土を作る。「育土」するのです。 全く無理なことですから有効な有機肥料を使います。 「現代農業」(月刊誌)でも取り上げられた「堆肥農業」ということになります。 1 年目に懸けます。 2 年目は、土の余力で作ります。 約束の栽培期間が、2 年間なので必死です。

以前、杉並農園の耕作者の中に、できた「土」を持ち帰る方もおられると聞きます。 次に使われる方が喜んでくれれば宜しいのではないのでしょうか。

宮前地区の区民農園で、実際目撃したことです。 気持ちは分かりますが、みみっちい話であります。

2 年間で野菜を作るには、NHKの指導する慣行農法(堆肥+化成肥)を頼りに栽培する方が多いことも致し方ない。 短期間で収穫するには手っ取り早い方法でありますから……。 しかし、有機中心の畑と化成肥 8・8・8 を使わ

れている畑とでは、区画ごとの「土」の量が目で見て解るほど違うのであります。2年後の耕地返還時に目撃します。

有機肥料中心の方の畑は、10~15 cmほど盛り上がっているのであります。雨が降っても水溜まりの痕が出来ていないのであります。「土」として年々良くなるのであります。年々良くなる畑を作りたいものであります。



隣の化成肥料中心の畑 一段低い

深く耕した畑 一雨降ると土粒が詰り水溜まりが出来る

1月30日(木)、春分の頃の気温に驚きました。 水槽のメダカが水面近くを泳ぐ。小池を覗くとやはりメダカが泳ぐ。ボケの蕾が膨らむ。紅梅・白梅の蕾が動く。すっかり春になりました。昭和36年、伊豆大島の中学に着任した時の気候と同じ。

同、26年通学途中、西武新宿線に乗りますと、先頭車両の窓、座席後ろの窓には樹霜のモザイク模様。すっかり、ダイヤガラスになっていた。千川上水、妙正寺川、高田馬場で合流する神田川からは湯気が立ち上る。近くの善福寺池に厚氷、上池も・下池も。

同、20年頃、夕方上石神井の銭湯に参りますと帰りは寒く、関まで歩くと濡れタオルを振り回しますと凍ってしまった。棍棒状になるほど冷え込んでいた。それが、この暑さ！ オドロキです。

小庭の樹木が茂り、スノードロップ、水仙もサフランも咲かなくなったり消えてしまいました。春待ち花が懐かしい。福寿草の花芽は出ていないか探します。雪割草、カタクリは？ イヌノフグリの空色、菜の花も良い。春よ来い、早く来いの思い、しきりであります。

関町郵便局(局長)の岩崎さん、関町ローンテニスのオーナーの野田さん。お隣りの榎本さん、そのまた隣の原京子さん。運動能力の抜群だったエースの榎本さん・・・2学年上の旧関町1丁目のメンバーです。上石神井の呉服店の田中さんも同学年だったと思います。姉の良子も。野球で優勝したり、6年生の時河口湖モーターボートの一件、絵も上手だった貞(佐田?)先輩。京子さんの周囲は多士済々でありました。2級下の私の憧れのメンバーでしたから。

京子先輩のお母さまには大層良くしていただきました。自然好きな私の師匠でありました。「典ちゃん」アオガエルがカマキリに食べられているヨ！保

育社の花図鑑を貸していただいたり・・・、「次のハレー彗星見てからバイバイ
 ね」とか。お習字の先生でもありました。「天地人」から始めました。黒板に
 読める字が書けるようになりました。感謝、感謝。突然の春風で、色々の
 ことを思い出し書かせていただきました。



深沢君にいただいたミニカトレア 咲く

クンシランの蕾(黄) 待ち遠しい

ミニ温室の中には、フランスに出かける時に預かった深沢君のラン。その中
 からいただいたミニ胡蝶蘭(白・舌部薄ピンク)、J A石神井で買った黄色のミニ、
 「芝勝」で仕入れた白花の胡蝶蘭。蕾を付け始めました。

40年前に始めたヒガンバナ科のクンシラン(赤・橙・黄)、オザキフラワーで購
 入したものです。保谷の教育大学附属中の温室で仕入れたもの(赤)。

一頃70株以上増えた時もありました。中学の「栽培」の授業で使おうと
 増やしたものです。去年整理しました。今、ダルマ系の橙色、黄色が花茎を
 持ち上げています。



ミラクルフルーツ 20℃で年中実る

ジャボチカバは、10℃を割ると葉が落ちる 右上の花芽、膨らむ

ミラクル3本に実がついています。時々10℃前後になってしまうせいから
 か花が止まっている。特に窓側がひどいので移動しました。すると、3日目
 から再び咲き出しまして良い香りがします。元気になりまして、鉢が良く乾
 くようになりました。

ジャボチカバは、室温を2℃上げると、花が膨らみ。2度ほど下がると幹の中に引っ込む。その繰り返しです。おそらく20℃越で、花が着き始め、フトモモ科特有の白い花を茎に密生する。幹が見えないくらい実を着けるのが面白い。夏になるとブドウ「藤稔」の様な実で覆われて見事。年間4～5回実る。20℃を続けたいのですが鬼が角を出すのでできません。温室の主目的は、「イモ」等の越冬で、「サツマイモ」の苗も自給しています。

猫はハウスで丸くなる 8年ほど前の夏、長野に遠出して家に帰ると、ガリガリに痩せた子猫。ヨロヨロと世垂れかかる。水で牛乳を薄めて飲ませる。何とか助かった。口の中が悪臭！ 獣医科で治療する。とにかく生き延びて現在に至る。その後も太らず弱っちい。腎臓の一つが消失しているらしい。この子を「生きる競争相手」にする。あと5年すると13歳。私は87歳になる。いいとこ勝負だと思っていおます。いやいや「90歳からの野菜作り」を目指しているのですから、猫にかまってはられない。「可愛いチビ2」頑張って生きましよう。で、猫はミニ温室のガラスケースの上で寝る。猫の調子が悪いのが心配である。



オザキフラワーセンター 野菜の種

同センター 花の苗売り場とレストラン

オザキフラワーに肥料の値段を調べに行きました。 通称「生きた植物図鑑(館)」と勝手に命名しているお店です。何から何まで揃います。

勿論植物に限らず、庭の設計から、手入れ。各種の石・岩・レンガも。担当者が良く勉強している。アンティークの庭作り用品も揃う。とにかくすごい。そうそう、このアンティーク物を止めるらしい。

人が来てもお買いになる方がいないようです。私は、アンティークぶりが好きでした。でも買ったのは、白焼き物の穴が沢山開いている鉢だけです。方向変えもしかたないか……。豪華なシャンデリアも姿を消すであろう。

雰囲気は百円ショップ化しそうなので残念である。手の出ない高価な植物も姿を消している。止めたらしい。生きた植物図鑑が消えていく。このお店は、種苗会社との連絡も取れるので、重宝である。「芝勝」と「オザキ」で大概の用が足りている。